

# 文化

## 日本を愛したチェコ建築家

◇母国で回想本刊行 忘れられた業績伝える◇ ヘレナ・チャプコヴァー



を訪問し、38年に帰国したことも分かっている。このとき、両親はすでに亡くなっていた。そして数年後、兄弟全員がホロコーストで命を絶たれる。レーモンド・ノ市に暮らすエゴのクラドノ市に暮らすユダヤ系だったのだ。それでも60年代にはチェコの若い建築家たちがレーモンドに関心を抱き、母国での展覧会の企画が持ち上がったこともある。しかし実現しなかった。68年、旧ソ連がチェコに侵襲したためだ。来日して大学の教員になった私は、いつかレーモンドの仕事に母国に知らせたいと考えていた。そして昨年、ひょんなことで夢がかなった。彼の故郷クラドノ市とチェコ政府が費用を負担してくれることになり、チェコ



日本の自邸でのアントニン・レオモンド夫妻

の出版社から日本語とチェコ語併記の書籍「日本におけるアントニン・レオモンド 1948-1976 知られたの回想」を刊行した。チェコ語による初の本だ。刊行には多くの方の協力を得た。17年間秘書を務めた五代美子さん、レーモンド設計事務所で働いた内藤恒方さん、北澤興一さんのインタビューを収録。北澤さんからは数多くの写真や資料も借りた。日本におけるチェコの文化施設、チェコセンター、東京も出版を後押ししてくれた。レーモンドはなぜ日本で長いキャリアを築くことができたのだろうか。インタビューから浮かびあがるのは、彼が築いた国際的ネットワークの存在だ。米国の大手設計事務所に勤務して独立し、日本ではライトの下で働いたことにより、米国をはじめとすると外国人コミュニティと交流したのだ。そして何より当時の日本人、とくに富裕層がモダンな住宅や別荘を求めた。日本的な感性を取り入れたレーモンドの建築が受け入れられ、クライアントも増える。戦前は主に外国人や外国企業との仕事を手掛け、戦後は日本の公共建築などへ活躍の幅を広げた。事務所には日本人の所員も増え、建築家の前川国男、吉村順三らを輩出する。母国にわずかに残され

た書簡からは、戦後のレーモンドの母国に対する複雑な思いがうかがえる。戦後のチェコ、特に旧ソ連侵襲後の母国では、もはや自分の知る祖国ではないと感じていたのではないだろうか。しかし孫娘のシャロットさんによれば、晩年チェコでの昔の出来事を

### アイヌ絵の世界十選

北海道大学客員教授 佐々木利和



アマナイ(7)

「蝦夷生計図説(三)トイタの部下」(部分)

この絵をみて、おやどこかで見たと想方がいらっしやるかも知れない。そうイサベラ・バード「日本奥地紀行」の図版として用いられている。アママイ(ハカ)と題するこの絵はトイタの部にある。トイは土、夕は掘るを訳される。簡単な畑を耕すほどの意味であろうか。そのなかの食事をして描写がアママイへの図。アママイは穀物、イベは食べるという。この場合の穀物とは粟や稗のことだ。炉(アバオ)を中心に5人の大人と裸の子4人が食事を楽しんでいる。燃えさかる炉の火、炬燵(アバオ)の内側には火の神(アバフチカムイ)の祭具イナウがある。難然と座っているようにみえるが、じつはきちんと場所が決められている。中央の老夫婦が決めるのがシソ(右座)とい、家の主人(チセコク)と主婦の座。前方はハリキソ(左座)で家族の座。右端お盆にのった櫛の前にはいるのが客(マアフト)で、それがロルソソ(上座)である。主人と客は拜礼をし、主婦(フチ)は櫛をさびきしている。これはお粥(オホウ)を食べることでカムイに感謝の詞をのべているのだとい。1823年完成、計8巻、東京大学総合研究博物館蔵

## 私の履歴書

天坊 昭彦

アフレが忍び寄る足音が目増しに大きくなるなかで、政府はどの動くのか。私は情報収集に動いた。

### 市場の圧力 財務改善急ぐ

盟友と議論重ね警鐘

### 金融自由化

銀行は生き残りをかけて、融資の厳格化に動いた。貸出先のキャッシュフローや財務状況をより重視するようになり、保有債権を流動化させるかも。それでも出

引の利率は市場で決まり、危ないと思われた貸付先の債権論を重ねた。大蔵省や銀行から聞いてきた内容を取締役会に報告書として説明すべきだとアドバイスしてくれたのも吉田さんだった。

取締役会の雰囲気も変わりつつあった。時間の経過に伴い、私が訴えてきた通りの金融状況になってきた。ともあり、意見を聞いてもらえようになつてきた。2兆5000億円の有利子負債を1兆8

000億円まで減らすことを優先し、そのために投資を抑制すること、遊休資産の売却、コスト削減を徹底することが認められた。

「アサトのんの男子やろ。知ってるよ。10年以上前、その間イベントでシンカーソングライターの齋藤タツオさんに初めてお会いした。子供のころ、齋藤さんのギャグソングに大爆笑していた僕は、声をかけてもらったことに大感激。師匠であるキタリスト、中川イサトさんを存じなかったこともうれしかった。聞へん齋門さんはフォークソングが大好きで、イサトさんにギターを習ったこともあった。なんぞ兄弟子だったのだ。

### 交遊抄

以来、仕事で度々一緒になっていた。2015年に大阪の万博記念公園で開かれたイベント。万博マニアの齋門さんが、僕の「翼you are the HERO」というインストゥルメンタル曲に歌詞をつけてくれたのだ。太陽の塔を背に、塔をたたえる歌を歌う姿はまさにフォークシンガー。齋門さんと距離がさらに近づいた気がした。



出光裕治社長と筆者

それが効果を上げ始め、有利子負債は93年頃をピークに減少する形に変えた。このように有利子負債削減へ動き出したが、時代はこう変わりつつある。出光が